

狛江市長
松原 俊雄 様

防災フェアでの自衛隊による " 戦争体験 " に抗議し、
今後の市の行事に自衛隊を参加させないよう求めます

10月27日、狛江市主催の防災フェアに自衛隊が参加し、「戦闘機・戦車・パラシュート降下体験」のヴァーチャルリアリティ体験が行われました。また子ども用迷彩服を着せて自衛隊車両に乗車することも行われていました。案内する隊員は戦争用の迷彩服姿でした。

防災フェアは「防災について楽しく学び、体験できる」ことを目的と銘打っていました。戦闘機や戦車を操縦することが防災と無関係なことは明らかです。防災に名を借りた自衛隊の戦闘行為を子どもに体験させ、宣伝し、戦争する国づくりの地ならしをするものです。市はこうした自衛隊の戦争に向けた宣伝行為に手を貸したことになり、「狛江市平和都市宣言」に反しており、厳しく抗議します。

私たちは、原発は必ず事故を起こす、起こせば空間的・時間的に途方もない被害をもたらすことを福島原発事故で学びました。原発のない社会を求めるとともに、同時に核兵器のない社会、平和な社会を求めています。

2015年の安保法制により集団的自衛権を有し、しかも敵基地攻撃が可能とする軍事力を備えようとしている自衛隊は明らかに憲法9条に違反している違憲状態にあります。自衛隊は災害が起きたときの救助がその本務ではないことは明らかです。

市が戦争する国づくりに手を貸さず、防災フェアに名を借りた自衛隊参加を認めず、自衛隊への生徒名簿の引き渡し等に応じず、「狛江市平和都市宣言」に基づいた平和活動を遂行するよう求めます。

2024年12月17日

原発と気候危機を考える会
連絡責任者 西尾真人